

# 人間学部

◎宗教学科

◎人間関係学科 [ 臨床心理専攻 / 生涯教育専攻 / 社会福祉専攻 ]

資格取得

信じる、教える、支える、癒やす

AIには真似できない  
共生社会の鍵

|                 | 宗教学科  | 人間関係学科 臨床心理専攻  | 人間関係学科 生涯教育専攻  | 人間関係学科 社会福祉専攻  |
|-----------------|---|--|--|--|
| 学びの特色、強み        | ① 宗教学と天理教学。<br>2つの視点から人間を探究。<br>② 対話と実践を重視した少人数制教育を展開。<br>③ 宗教文化士認定資格の取得や<br>併設大学院への進学も可能。  | ① 心の働きや悩みを、<br>臨床心理学の視点から探究。<br>② 現場での支援活動などを通して<br>他者理解の姿勢を学ぶ。<br>③ 公認心理師資格（国家資格）に完全対応した<br>学部カリキュラム。   | ① 学び続ける人を支え、自らも成長する。<br>② 生涯教育の専門家に必要な、<br>幅広い知識と技能を習得。<br>③ 地域貢献活動に参加し、<br>実践力やチーム力を磨く。   | ① 次代の福祉社会を担う専門性と<br>意欲のある人材を育成。<br>② 社会福祉士、精神保健福祉士国家試験で<br>高い合格率を達成。<br>③ 社会福祉の現場で、<br>対人援助に必要な実力を養う。  |
| 求める人材像          | 天理教をはじめとする宗教についての学問的な知識や思考力を身につけることで、より広い視点から自らの信仰を省み、深めたいという高い志を持つ人材を求めます。また、特定の信仰を持たなくても、天理教や世界の諸宗教について関心を持ち、それらを学ぶことで自らの視野を広めたいと望む人を歓迎します。   | 悩める人と向き合い、心の交流を通して支援する他者理解のあり方、人間の可能性を通して心の問題をとらえる姿勢を学びたい人を求めます。また、心のはたらきを多角的な視点から学び、より高い視野のもと総合的に理解しようとする人、自らの創造性にふれながら発見と洞察を深め、主体的に学ぶようとする人を歓迎します。   | 生涯における「学び」の重要性という視点から、社会的な活動（例えば、地域づくり、ボランティア、社会貢献活動、生きがいづくり、子育て支援、職能の向上）を題材に、将来につながる生きた知識と技術を探求したい人を求めます。また、「教育のプロフェッショナル」として意欲的に成長し、他者の「学び」を支えることに喜びをもてる人を歓迎します。   | 社会福祉の価値や倫理、また現代社会における生活上の問題に対する関心を持ち、生活問題の解決やそれを抱える人々を支えるための方法を身につけたい人、社会活動・スポーツ・文化活動などに積極的に取り組んだ経験を持ちながら社会福祉に関心がある人、福祉専門職または社会福祉の視点を持つ市民として行動したい人、を求めます。  |
| 身につく力           | 天理教をはじめとする宗教全般についての歴史的・学術的な知識と宗教に対する深い理解を養います。また、習得した知識をもとに、より多くの人に説明、発信する力を身につけます。さらに、学科学会の活動などを通して、人々と積極的に関わり、協調してものごとに取り組める豊かな人間性やコミュニケーション力を身につけます。   | 臨床心理学の実践スキルを養うための演習・実習科目を体系的に学び、心理学の幅広い領域の知識と次のような力を身につけます。<br>① 悩める人と向き合い、心の交流を通して支援する他者理解のあり方の意義を理解する力<br>② 人間の可能性を通して心の問題をとらえる力<br>③ 心のはたらきを多角的な視点から学び、より高い視野のもと総合的に理解する力<br>④ 自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深める力。<br>⑤ 心理学の探究に主体的に取り組む力。   | ① 人の生涯にわたる成長過程をとらえるための基本的な知識<br>② 社会の事象や制度について教育的な視点で考える力<br>③ 学習機会の創造にむけて、チームで協働し、企画・運営する技能<br>④ 学びのための課題を見抜く着眼点や発想力<br>⑤ 他者の学びをサポートする学習支援能力  | 現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し分析する知識、生活問題を多角的に分析し支援するための実践力、生活上のさまざまな課題とその解決方法について考えることができる思考力を身につけます。さらに、社会福祉の価値や倫理、福祉専門職または社会福祉の視点を持つ市民として行動することができる行動力を育みます。  |
| 卒業論文のテーマ例       | ○ サブカルチャーと宗教 —なぜ聖地巡礼なのか—<br>○ 地域の拠点としての天理教会の新たな取り組み —子ども食堂を通して—<br>○ 北欧神話における終末論 —女神ヘルはなぜ追放されたのか—<br>○ おつとめにおけるおうたと手振りの関係性<br>○ 弁論論の今日的可能性についての考察<br>○ 天理教内における雅楽の歴史 —教内草創期における雅楽の演奏状況—<br>○ 井筒俊彦の言語論<br>○ 天理教の夫婦観<br>○ 経験・悪・信仰 —W. ジェイムズの「宗教的経験」をめぐる—<br>○ コンゴブラザビル教会の活動からみる天理教のローカル化 —コラスをとおして— | ○ 幼少期の父子関係が大学生の社会的不安に与える影響について<br>○ 青年期の最も親しい他者との獲得定型的愛着への変化の要因の検討 —メンタライジングの視点から—<br>○ “遊び”と子どものこころの変容 —学童保育の児童に焦点を当てて—<br>○ パワーハラスメント認知と自己愛、本当の自尊感情との関連<br>○ 寮生活を送る高校生の居場所感とアタッチメントスタイルの変化 ～居場所の心理的機能に注目して～<br>○ 絵本の読み聞かせ体験による心の変化<br>○ 大学生におけるSNS利用時の社会的自尊感情の関連 —Twitter、Instagramの比較を通して—<br>○ モーパッサンの『ピエールとジャン』にみる同胞葛藤<br>○ 思春期に性的虐待を受けた女性の心理 —女性被害とパートナーの関係—<br>○ 大学生の復身願望と自尊感情の関係 —男女差における比較検討— | ○ 地域教育力の向上を果たすジュニア・シニアリーダーの役割<br>○ 地域スポーツクラブにおける指導者の意識調査<br>○ 子どもの遊びが成長に及ぼす影響 —ある児童クラブにおける遊びの観察より—<br>○ 高齢者が地域活動を通じて感じる生きがいについての考察<br>○ 共創の場としての地域密着型日本語教室 —平野日本語教室の実践を通して—<br>○ U、I、ターン者が作り出す持続可能な地域社会<br>○ カフェ利用者からみる女性のライフスタイルについて<br>○ デジタル化社会において写真を現像・印刷して残すことの意味<br>○ ‘ホースセラピー’の存在‘馬’が人を癒す可能性 | ○ 地域における親子の居場所について考える —田原本町の子育て支援事業の現状から—<br>○ 発達障害児者の強みを生かす支援の在り方について<br>○ すべての女性が働きやすい社会になるために<br>○ 高齢者施設における虐待防止 —ソーシャルワーカーにできること—<br>○ 触法知的障害者の地域定着支援の実態とこれから —地域生活定着促進事業をもとに—<br>○ 周産期からの虐待防止としてのソーシャルワーク<br>○ 愛着障害のある子どものいる家庭に対する支援モデルからみた子育て支援事業の検討<br>○ 難病に関する理解の促進について —日本における難病の歴史や対策から考える—<br>○ 触法精神障害者の地域移行支援とその課題<br>○ 障害児者のきょうだい支援に関する研究 |
| 取得可能な資格         | 中学校教諭一種免許状（宗教）／<br>高等学校教諭一種免許状（宗教）／<br>宗教文化士（受験資格）／図書館司書／<br>博物館学芸員／日本語教員／矯正・保護支援／<br>社会福祉主事任用資格  | 公認心理師（大学院修了、あるいは卒業後省令で定める期間の実務経験を要する、受験資格）／<br>臨床心理士（要大学院修了・受験資格）／<br>認定心理士／社会福祉主事任用資格／図書館司書／<br>博物館学芸員／日本語教員／矯正・保護支援  | 社会教育士・社会教育主事任用資格／<br>社会福祉主事任用資格／図書館司書／<br>博物館学芸員／日本語教員／矯正・保護支援   | 社会福祉士（国家試験受験資格）／<br>精神保健福祉士（国家試験受験資格）／<br>社会福祉主事任用資格／児童指導員任用資格／<br>図書館司書／博物館学芸員／日本語教員／<br>矯正・保護支援  |
| 目指せる将来像         | 将来、天理教の教会の活動に従事する人材、あるいは何らかのかたちで天理教にかかわりを持つ人材になることを目指します。また、本学で学ぶことで培われる幅広い知識や豊かな人間性は、天理教の信仰の現場以外でも、社会のさまざまな領域で活躍できる人材の育成につながっています。   | 公認心理師・臨床心理士などの心理専門職をはじめ、心理学的素養と心で考える力を備えた社会人になることを目指します。また「臨床心理士」資格取得のための大学院を併設し、進学に必要な知識とスキルを習得できる学習内容を用意しています。さらに、心の領域の学びは、さまざまな職業や地域社会、家庭において生きる、「一生もの」の財産となるでしょう。  | ① 社会教育主事などの資格を生かし、公務員をはじめとする教育専門職として、または企業・団体などで働く<br>② 地域と連携する力や問題意識を生かし、地域・学校協働活動や家庭教育支援を含む、地域での生涯学習支援者になる<br>③ チームでの協働力・企画運営能力・ファシリテーション能力を生かし、多様な場面でプロジェクトの核となる人材として活躍   | 高齢者、児童、障がい者などの領域の各種社会福祉施設・事業所、福祉事務所、児童相談所、地域包括支援センターなどの相談機関、社会福祉協議会などの社会福祉団体などにおいて、福祉専門職として活躍できる人材になることを目指します。また、本専攻で習得する知識、態度、思考力、実践力は、福祉の現場以外でも活用することができ、社会福祉の視点を備えた市民として行動することにつながります。  |
| 資格取得実績・卒業後の進路など | ○ 宗教文化士 合格者数<br>2016年度…2名 / 2017年度…1名 /<br>2018年度…1名 / 2019年度…1名 /<br>2020年度…2名   | ○ 大学院進学者<br>2021年度…6名  | ○ 社会教育主事（任用資格）取得者数<br>2021年度…15名<br>○ 図書館司書 取得者数 2020年度…2名<br>○ 博物館学芸員 取得者数 2020年度…1名<br>○ 矯正・保護支援課程 修了者数 2021年度…1名  | ○ 社会福祉士国家試験<br>2021年度…全体合格率 31.1%<br>天理大学：新卒60.9%<br>(23名受験、14名合格)<br>○ 精神保健福祉士国家試験<br>2021年度…全体合格率 65.6%<br>天理大学：新卒83.3%<br>(6名受験、5名合格)   |

## 就職実績

(2020年度卒業生実績)

- 〈主な業種〉 医療・福祉／公務員／卸売・小売／教員（講師含む）／建設／サービス／宗教（天理教）  
生活関連・娯楽／製造／宿泊・飲食／情報通信／金融・保険／複合サービス事業 など
- 〈主な就職先〉 ●天理よろづ相談所病院 ●協同福祉会あすなら苑 ●功有会 ●鴻池会秋津鴻池病院 ●洛和会ヘルスケアシステム  
●橿原市社会福祉協議会 ●一条工務店 ●アイ工務店 ●エディオン ●三笑堂 ●岡村印刷工業  
●ユナイテッドソフトウェア ●ネクステージ ●ホンダネット京奈 ●大阪厚生信用金庫 ●奈良県農業協同組合  
●オークホテル ●セコム ●TETRAPOT ●大阪府 ●奈良県 ●名古屋市 ●中津市 ●警察（大阪府）他



人を思い、人と共に生きる。

天理大学は長い歴史と伝統のなかで、「人間」という存在を見つめてきました。  
 人を思う。人とつながる。世界が変わる。  
 知識や技術だけではなく、人間力。  
 人間という存在と真摯に向き合い、「人間力」を身につける学びがここにはあります。

人間学部が目にする4つの営み

# BESTな学び。

## Believe 信じる

宗教学科

宗教の視点から、  
 生き方や社会のあり方を探る。

世界各地が異文化共生に悩み、テクノロジーの急速な発展が生活の根本を変えようとしている今、他者を深く理解し本質的な生き方を探究する姿勢がますます求められています。本学科では天理教や世界の諸宗教の広い知識をもとに宗教や信仰の意味と本質を追究し、天理教の教えにもとづく人間の本来のあり方を探ります。



## Education 教える

人間関係学科 生涯教育専攻

子どもから大人まで、  
 学び続けられる環境づくりを目指す。

人間は、「教育」によってはじめて「人間」となり、「学習」によってよりよく生きることが可能となります。本専攻では、「教育」と「学習」を、生涯教育論から再考し、実地研修を通して支援の理論と方法を習得。教育現場や官公庁、企業、地域社会などさまざまな領域で人材養成の専門家として活躍できる人を目指します。

## Support 支える

人間関係学科 社会福祉専攻

あらゆる人が、自分らしく生きていくために  
 「自分のできること」を探る。

本専攻では、プロの援助者養成を目指します。誰もが無事に生きる社会の実現に向けて、自分に合った方法と技が見つけられるようなカリキュラムを準備。理論学習はもちろん工夫を凝らした実践教育に力を入れ、実習教育や援助技術演習などの科目において個別指導やグループ活動を取り入れた多様な授業を行います。



## Therapy 癒す

人間関係学科 臨床心理専攻

自分と他者の心を深く理解するための  
 技術と姿勢を学ぶ。

人が抱えるさまざまな悩みや課題を臨床心理学の視点、特に心理療法の視点から探究し、人がよりよく生きるための心理的支援について学びます。豊富な実習などを通して、単なる知識ではない体験的な「生きた知」を習得。自分自身のこころの新たな出会いを通じ、個性を伸ばしながら社会で活躍できる人を目指します。

## 学部長 INTERVIEW



「人間力」を磨き、  
 他者と共生する力を育みます。

天理大学 人間学部  
 学部長 岡田 正彦

人間学部で身につく力はどのようなものですか？

**A** シンプルに「人間力」と表現できると思います。人生には思い通りに行かない場面が多々ありますが、学生たちが今後どのような壁に直面しても、腐ることなく、前向きに対応する姿勢を身につけられる場所です。各学科・専攻によって専門領域は違っても、この点においては共通しています。宗教や心理学、生涯教育や社会福祉などの理論と実践を深く学ぶことによって、現代社会において「より良く生きる」ことの意味を見だし、他者と共生する力を育みます。

人間学部での学びは、  
 人生をどのように豊かにするのでしょうか？

**A** 本学での学びは、卒業後の各分野における社会的な実践において、それぞれの活動を支える大きな力となるでしょう。どんな職業に就いても大切なことは、意欲を持って仕事に取り組む姿勢、そしてその源泉となるのは、心の芯になる理想や理念です。経済的な豊かさや社会的な承認を求めるとは、一時的に人の行動を支えることはできません。大学時代に人生の意義について深く考えた時間は、必ず卒業生たちの人生を豊かなものにしていくはずですよ。

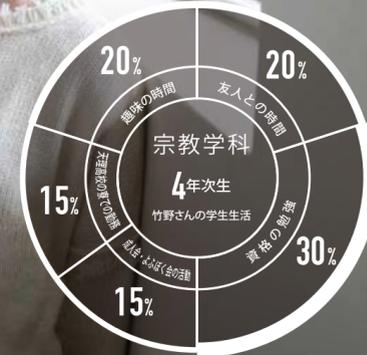
アメリカの同時多発テロを

テーマに研究。

宗教学科

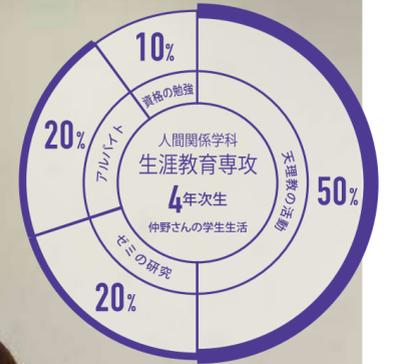
竹野 美幸さん  
 宗教学科 4年次生

天理高校の教養科の先生になりたいの  
 思いから、天理大学に入学しました。9.11  
 に関する映画をきっかけに興味を持ったア  
 メリカの同時多発テロをテーマに研究しな  
 がら、教育実習に向けた準備に励んでいま  
 す。指導法などの教職の授業では、諦め  
 ないことの大切さを学びました。何事にも  
 一生懸命に取り組み、夢を叶えたいです。



仲野 幸代さん  
 人間関係学科  
 生涯教育専攻 4年次生

奈良県の小学校で行われている放  
 課後子ども教室の企画・運営に熱心  
 に取り組みました。小学生の子ども  
 たちが安全に遊べる企画を考えるの  
 は難しかったですが、準備や当日の  
 進行を通じ、相手の立場で考え、行  
 動することの大切さを学びました。多  
 くの人が信頼される人になることを  
 目標に、全てに一生懸命に取り組み  
 たいです。



放課後

子ども教室で学んだ、  
 相手を思い行動すること。

人間関係学科 生涯教育専攻

# 学びの最前線。

辻 夏怜さん  
 人間関係学科 社会福祉専攻 3年次生

時には手を引き、時には背を押し、そして、時には並んで一緒に歩いていく——そんな「支援者の在り方」を学びたいと考え、社会福祉専攻に進学。専門性を学びながら、福祉が決して「特別な人」を対象にするものではなく、私たちの日常生活を支えるための基盤なのだ日々痛感。万人に寄り添えるようなソーシャルワーカーになりたいです。

人に寄り添える

ソーシャルワーカーを

めざして。

人間関係学科 社会福祉専攻



宮本 悠利さん  
 人間関係学科 臨床心理専攻 3年次生

人を直に観るといこと=直観につい  
 て研究しています。また臨床心理学を  
 学ぶうえで、座学や本による勉強に加  
 えて、実際に人と関わる経験による学  
 びも重要だと考え、奈良家庭裁判所  
 で非行少年と関わるボランティア活  
 動にも励んでいます。常に心に対する  
 謙虚さを忘れず、心そのものを直に  
 観ることを実践していきたいです。

謙虚さを忘れず、

“心”と向き合いたい。

人間関係学科 臨床心理専攻



※ 学生の年次は、2022年3月時点のものになります。



## 地域と協働し、子どもたちが安心・安全に遊び学べる機会を

人間関係学科 生涯教育専攻 ○「放課後子ども教室」の企画・運営

近年、子どもたちが安心・安全に遊んだり学んだりする機会を地域と学校が協働してつくり出す取り組みが盛んになっています。「放課後子ども教室」も、放課後学校に残った子どもたちを対象に地域住民が企画・運営している社会教育の事業です。生涯教育専攻の学生は、天理市、奈良市、橿原市といった近隣の子ども教室にボランティアとして参加します。特に1年次は「生涯教育基礎演習」という授業のなかで事前に子ども教室について学び、参加する子どもたちに向けた活動

を学生たちで企画。計画した活動は実際の子ども教室で実践され、その記録を再び大学の演習に持ちかえり改善点などを探ります。このような「企画づくり→実践→ふりかえり」の過程を通じて学生は力をつけていきます。子どもや地域社会をめぐる課題の学習、グループワークによる企画のアイデアづくり、企画書の作成、地域や学校の関係者と連絡・交渉する経験等を通じ、生涯教育の基礎を培います。



## 伝統のもと、豊富な体験型実習を用意

人間関係学科 臨床心理専攻

- 臨床心理学入門演習(1年次)
- 心理演習(3年次) ほか

箱庭療法を日本で初めて導入した故・河合隼雄先生の伝統を受け継ぐ気風のなか、人と人が出会うことから始まる臨床心理学の真髄に触れ、人の心に奥底から寄り添うことができる心理専門職を育成する体制を整えています。充実した設備を整えた学内カウンセリングルームを完備し、実習室には6台の箱庭とたくさんのミニチュアも揃っています。カウンセリングや箱庭制作の実習など、体験型の実習を豊富に設けています。



## 車椅子スポーツ体験で、誰もが楽しめる仕組みや共生社会の大切さを実感

人間関係学科 社会福祉専攻

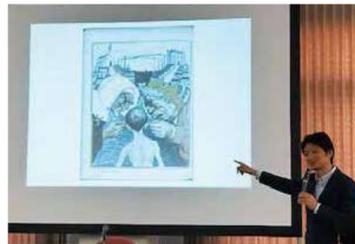
○車椅子スポーツ体験教室(ソーシャルワーク実習指導3)  
2020年11月25日、「ソーシャルワーク実習指導3」の一環として、車椅子スポーツ体験教室を開催しました。当日は宗教学科卒業生の糸賀亨弥さん(一般社団法人Wheelchair Football Japan代表)をお招きし、競技用車椅子を使った体験教室を実施。学生たちは実際に競技用車椅子に乗りながら、簡易版のウィールチェア・フットボールを体験しました。「障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる仕組みを考えるきっかけに」と担当教員が話した通り、今回の体験は学生にとって、障がいについて考え共生社会の大切さを実感する機会となりました。



## 社会福祉士資格取得をめざし、実習後の振り返り

人間関係学科 社会福祉専攻

○ソーシャルワーク実習  
「ソーシャルワーク実習」は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目。2、3年次の夏季休業期間等に約5週間以上の実習を行います。学生本人の希望を考慮しながら、社会福祉施設(高齢者、障がい者、児童)や医療機関、社会福祉協議会などにそれぞれ配属され、現場のなかで必要な知識や技術を学びます。実習を意義あるものにするために、事前学習はもちろん、写真のように実習で体験したことを整理し考察する作業が不可欠です。



## 年2回の特別講義で、宗教学をより深く学ぼう

宗教学科

○宗教学科特別講義

宗教学科では、毎年春・秋の2回、特別講義を実施しています。春学期の特別講義では、卒業生やかつて宗教学科の授業を担当していた先生を講師として招き、宗教学科で学んだ意義について体験談を交えて、在学生へ伝えて頂きます。秋学期の特別講義では、宗教学関係の著名な研究者を招き、現在の宗教事情や研究動向などを講師の専門分野に沿ったテーマで講義していただきます。



## 天理の新名物“麩ろったん”で、地元を盛り上げたい

人間関係学科 生涯教育専攻

○商品開発プレゼンテーション実施

2018年12月、「生涯教育特論7」の一環として「天大生が考えた天理の新名物2018」の商品開発プレゼンテーションを開催。学生たちが「天理の新名物」を考案する実践型学習として実施され、当日は天理市内の事業者を中心に計6社が参加。ここで採用された「お麩のラスク」のアイデアは、授業の枠を越えた特別プロジェクトに発展し、在仏25年の経験を持つ永尾学長の監修のもと、試作を繰り返し約1年の年月を経て完成。天理大学と千葉製菓商店による共同開発商品「麩ろったん」として、2019年10月より発売中です。



## 「ようこそおかえり」子どもたちに笑いとお顔を

宗教学科

○こどもおちばがえりひのきしん

宗教学科成人会では毎年多くの行事を実施。その一つとして、夏のこどもおちばがえりでバラエティー会場のひのきしんを行い、全国各地から天理へ帰ってきた子どもたちに笑いとお顔を届けています。バラエティーは1公演で2000人を超えることも。リピーターも多く人気のイベントです。成人会はコントの部分が担当。一からの手作りであるため子どもたちが笑ってくれたときは、とても嬉しく感じます。一手一つに、楽しく頑張っています。



## 児童虐待防止について考え、オレンジリボン運動の推進に協力

人間関係学科 社会福祉専攻

○児童虐待防止

毎年11月は「児童虐待防止推進月間」として、全国で児童虐待防止の理解を広げるオレンジリボンキャンペーンが展開されています。これに合わせて、社会福祉専攻の学生を中心に「こどもの虐待防止をマダマに考える学生ミーティング」を開催。天理駅南団体待合所において、「児童家庭支援センター」のソーシャルワーカーと一緒に、大学生にもできる児童虐待防止について考え、オレンジリボン運動の推進に協力しました。



## 社会教育の現場でみたく、総合的な実践力

人間関係学科 生涯教育専攻

○社会教育実習

3年次に実施する社会教育実習は、①社会教育行政・施設での実務実習 ②社会教育関連施設の見学実習 ③生涯教育専攻独自の企画運営で構成されています。この経験を通じて、実践力を高め、実際の教育現場に触れることで社会教育の実状について理解を深めるとともに、授業で学んだ専門的な知識や技能を活かしながら教育事業の運営も経験。学生同士が力を合わせて準備に取り組み、実習後の振り返りの時間も大切にしています。



## 「言葉以前のこころの表現」を大切に

人間関係学科 臨床心理専攻

○心理演習

例えば子どもの「遊び」に秘められた心の表現に接していくプレイセラピーは、座って聞くだけの授業では学べません。本専攻では頭ではなく「こころを動かす」体験を重視。絵を描いたり散歩したりと、意味がなさそうに見えるものに秘められているイメージの大切さを学びます。さらにカウンセラー役とクライアント役になって行うロールプレイプログラムも用意。大人のカウンセリングにもこうした感性が生きてくることを実感します。



## 総合教育研究センター

総合教育研究センターは、21世紀に生きる私たちに与えられた様々な課題に総合的な視野からアプローチするとともに、天理大学の基礎教育、教養教育、資格課程教育を推進していく上での研究開発を行うために設立されました。本センターは、「総合教育部門」「資格課程教育部門」「[建学の精神]実践プロジェクト部門」の3部門からなり、すべての学生が他者に貢献していく姿勢を具え、幅広く豊かな教養や資格を身につけることができるよう援助していくことを目指しています。

### 4年間の学びの基礎をつくる 基礎ゼミナール

総合教育研究センターでは、全学の新入生全員を対象にした、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の基礎力を身につけるための科目を開いています。ここで学生は大学の授業や講演会でのノートの取り方、自己紹介やプレゼンテーションなどでのスピーチの仕方、レジュメ(要約文)の作り方など、大学生として知っておくべき技術や社会人としての必要な知識を学びます。



### 大自然から学ぶ知恵 森に生きる

天理大学の学生なら学部や学年に関係なく、誰でも受講できる科目。日本版とオーストラリア版があり、日本版は奈良県の吉野の山で合宿生生活をしながら昔の人々の暮らしを体験。オーストラリア版は現地の森林レンジャーの指導のもと、外来植物駆除のボランティア活動や有袋類など動物の世話をを行います。



天理大学生の他者への貢献精神をキャリア形成に活かすためのカリキュラムを用意。卒業生を講師として招くリレー式講義「キャリアデザイン」、ワークショップ型授業「キャリアプランニング」などを通じ、就活のためだけでなく働き方や生き方を長期的な視野で見つめます。

### 大学の学びを社会につなぐ キャリア教育カリキュラム



教授 岡田 正彦

### 宗教研究演習 1・2

世界の宗教思想や天理教の教えをより深く学ぶために、特定のテキストを選定し、教員の指導のもとで読み進めています。現在は「元の理」、「おさしづ」などの天理教関係文献や諸宗教の聖典などを読んでいますが、学生の希望に応じて、外国語の原書や古文書を扱うこともあります。宗教学科の教員は、多様な言語や古典等に精通していますので、さまざまな学びに対応することが可能です。皆さんからの積極的な提案をお待ちしています。



教授 千原 雅代

### 臨床心理学研究演習 1・2

学生の主体性を重視し、各自の関心に基づいた論文作成を行います。まずは、それぞれのテーマについて基礎文献を読み込み、先行研究にあたってゆ�ために、文献の検索・整理法を学びながら、考えたことや問題点をまとめ発表。自由な雰囲気なかでディスカッションを行うことで、問題意識を深めていきます。少人数制のもと、同級生や教員との対話を重ねることで得た新たな視点や知識は、卒業論文の作成はもちろんのこと、今後の人生のあらゆる場面で役に立つようです。

## 演習レポート PRACTICE REPORT



教授 佐々木 保孝

### 生涯教育課題研究 1・2

生涯教育専攻で卒業論文を作成するために実施されています。ゼミの人数は毎年5名程度。生涯教育の活動は社会に広く存在するため、各ゼミ生が扱うテーマは幅広いものがあります。ゼミでは各自のテーマからどんな学習者の姿が見えるのか、学習支援の方法やそれを支える制度・仕組みに潜む課題は何か、どのような現象がこれまでにない学びの機会と言えるのかといった視点で分析したことを発表してもらい、皆で生涯教育の新たな知見を検討していきます。



講師 深谷 弘和

### 社会福祉学演習 4・5

社会福祉学演習4・5では、4年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を進めます。1人の教員に対して5〜7名の学生が研究関心に応じてゼミを形成し、少人数体制による研究指導が展開されます。深谷ゼミでは、児童虐待や、非行、不登校、または里親や児童養護施設での支援実践など、主に児童福祉分野の研究テーマをもった学生が所属しています。研究関心が近い学生同士が、ディスカッションなどを通して卒業論文を完成させます。

### TVの宗教特集で感じた違和感が、研究のきっかけに

准教授 澤井 治郎

専門：天理教学、宗教学



研究内容は大きく二つに分かれます。一つは、天理教学に関して。天理教では伝統的に教えや信仰が「道」「お道」という言葉で表現されます。この言葉には「宗教」や「天理教」などは異なる、独特のニュアンスがあると思います。原典や教典による教話などの資料を検討し、天理教を「道」として捉え直したいと考えています。もう一つは、現代アメリカの宗教思想に関する研究であり、特にキリスト教系の思想の展開と、それがどのようにアメリカ社会に流通しているかに関心があります。現在の研究のきっかけは、小学生の頃感じた宗教に関する報道への違和感。当時、ある宗教団体が多くの事件を起こしTVは連日その宗教

団体について報道しました。天理教の教会で育ってきた私には、その宗教団体とはほぼ同列に「宗教団体」として「天理教」が扱われることに強烈な違和感を覚えしました。ハッピーをきた信者さんが月にいくらかお供えしてるか?とインタビューされ、記者に執拗に金額を尋ねられている映像が今も脳裏に焼きついてます。「宗教」をどう理解するかに関心が湧くのは、こうした経験が影響しているのかもしれない。自分の進路について考えるのは苦しいという人もいます。でも、先には自分の知らない世界がずっと広がっている。さまざまな世界を体験し、面白い人生にしましょう。

### 心理療法・カウンセリングにおける「夢」の活用を研究

准教授 高嶋 雄介

専門：臨床心理学



夢の内容についてじっくり考えると、自分が気づかなかった心の状態を知りきっかけになります。一見、意味がないものやよく分からないもの、昼間にみたものの繰り返しのように感じるもの… こうした夢をカウンセリングで用いることに興味があり、研究しています。きっかけは、臨床心理学の学派の一つ、ユング派のDr. Giegerichの夢セミナーに参加したこと。一つの夢をゆっくりじっくりと考えることで、こんなにもクライアントの心の状態を理解することができて、その人のテーマを知る手がかりになるのかと衝撃を受けました。私は高校生のとき河合隼雄先生の「影の現象学」という本を読んで、臨床心理学に興味を持

ちました。人間の心の影や闇の部分は、一般的に考えるとなくした方が良いもののように思われますが、この著作で影や闇にも人の心の豊かさがあることを知り、物事をシンプルに見たり考えたりするのではなく、さまざまな角度や次元から捉え、考えることの大切さを知りました。進路選択に際しては、「これをやりたい、これが好きだ!」という強い気持ちがあればいけないと思いますが、始めてみた後になって分かることも多いもの。まずは「なんとなく」が入口でも良いのかもしれない。ゆっくりじっくりと取り組むことで、それがやりたいことに変わり、好きなことになっていくこともあるのですから。

## CLOSE UP 研究室

### 社会における多様な学びの在り方を模索する

准教授 杉山 晋平

専門：社会教育学・生涯学習論



生涯にわたる人間の学習とそれを支える社会や文化との関係を明らかにしていくことが私の研究テーマです。特に、多様な文化や組織が混じり合うことで生まれてくる新しい活動や人間の創造力に関心を寄せ、フィールドワークという方法で研究に取り組んでいます。きっかけは大学時代の親友の存在。彼はアメリカ合衆国で生まれ育った帰国子女でした。大学で出会って以来、すぐに意気投合し彼は私にとって唯一無二の存在になりましたが、4年生の春、「大学を続けようか悩んでいる」と告白されました。「授業の日本語がわからない」と。やがて彼は大学を離れ、力強く次の道を切り拓いていきました。このとき心に生まれたひっかかり

が、彼のように「さまざまな社会や文化が混じり合うなかで生きていく人間の学びや成長、それを支える教育のあり方」を問う研究へと進むきっかけとなりました。今もこの「多様性」という視点を大切にしながら研究に取り組んでいます。長期間にわたるフィールドワークのなかで、心に残る出会いや別れに立ち会うこともあります。一つの場に根を張り、命を育む生き方もあれば、複数の場を渡りながら価値あるものを選び、広げていく生き方もあるのかもしれない。フィールドワークの経験は「そんな研究者としての生き方もあるかもよ」と私に教えてくれているような気がします。

### 介護福祉現場で働く人々の賃金や労働環境の問題を研究

准教授 北垣 智基

専門：社会福祉施設運営管理、高齢者福祉、社会福祉調査



超高齢社会を迎え、今後さらに要介護高齢者の増加が進んでいくことが予測される日本では介護人材の確保が社会的な課題ですが、厳しい実態があります。その要因は多数挙げられていますが、賃金水準が仕事内容と見合っていないことや、身体的にも精神的にも負担が大きい労働環境が主要因になっています。その実態の把握とともに、背景やメカニズムを明らかにするため、高齢者介護福祉現場で働く人々の賃金や労働環境の問題に注目して研究を行っています。きっかけは、大学のときに経験したホームヘルパーのアルバイトでした。賃金の低さや労働環境の厳しさなど、介護福祉の仕事に対するイメージ

を覆す現実を目の当たりにしたことで、社会的にも重要視されているはずの介護福祉職で、なぜこのような事態が生じるのかについて、自分なりに学び、考え、向き合っていくべき問題だと考えたことが、研究を始めるきっかけとなりました。何事もそうですが、自分自身のモチベーションが高ければ高いほど、前向きに取り組むことができます。誰でも、自分の人生の「正解」などというものはありません。学生の皆さんには、自分自身が「ひとまずこれで良い」と思える選択を積み重ねながら、納得のいく人生を追求・創造してほしいと思います。



Centre Culturel Martinique-Japon (CCMJ) Musubi  
三枝マンガタル 春菜さん  
宗教学科 2012年3月卒業

## 日本語教員

フランスの海外県のひとつ、マルティニーク島で日本語教員を務めています。勤務するCCMJ Musubiは、天理教の布教所長でもある義母が作ったマルティニークで初めての日本語学校。海外で信仰する方々に魅せられ、引き寄せられて始めたこの仕事が今では大好きです。  
私は宗教学科で、その後の人生を大きく変えるきっかけと出会いました。「天理異文化伝道」の講義でコンゴ共和国にあるコンゴブラザビル教会の活動紹介ビデオを鑑賞し、アフリカの地にも天理教の教えが根付いていることに驚嘆。現地の様子を自分の目で確かめてみたくなり、3年生の時に現地調査という形で、約1カ月間コンゴブラザビル教会に滞在。卒業論文では教会の諸活動、特に現地特有のコロナ活動をテーマに選びました。また、2年次と4年次に参加した「国際参加プロジェクト」も貴重な経験に。インドネシアとカンボジアの小学校で防災教育や情操教育の活動に取り組み、その国の宗教事情を肌で感じたことで、宗教学科での学びがより深まりました。世界の諸宗

教を広く学び、実際に様々な国へ赴き体験したことは、フランスのような移民大国で生活するなかで、異なる価値観を尊重しながらも、自身の価値観も大切に生きていくうえで大変役立っています。日本語教員の経験はまだ浅く、上手く授業が出来ず落ち込むこともあります。でも学生さん達の笑顔を見ると疲れも吹き飛び、もっと頑張ろうと前向きになります。元々教員という職業に、「自分は人様に何かを教えられるほどの者ではない」と消極的な印象を持っていたのですが、実際にこの仕事を始めて、自分が教えることよりも相手から学ぶことや与えられるものの方がずっと多いことに気づきました。育てられているのは自分の方だと、学生さんに感謝する毎日です。苦手意識のあることでも、挑戦してみたら意外な魅力ややりがいも気付くも。私自身、恩師の「走りながら悩めばいい」という言葉で視界が開けました。受け身になってはせっかくのチャンスを逃してしまいます。最高の大学生活だった、と笑顔で卒業できるよう、いろいろなことに積極的に挑戦して有意義な時間を過ごして下さい。

## 出版社職員



(株)天理時報社  
製造部 製本課  
鈴木 敦詞さん  
宗教学科 天理教学専攻  
2004年3月卒業

製本課で勤務し、本を作る最終工程に携わっています。品質を常に意識し、お客様に喜んで頂ける製品作りを目指しています。大学時代は雅楽部に所属し、3年生のとき部長になりました。組織のなかで働くうえで自分は何をするべきなのか、周りとの連携をどう図るべきなのか迷ったとき、雅楽部での活動を今でもヒントにしています。  
ネットや電子書籍が主役になりつつある時代かもしれませんが、だからこそ、お客様に本物を届けられるような仕事をしていきたいと思っています。「人と人の繋がり」についてとことん考えられるのが、人間学部の学びの醍醐味。4年間のなかで、一人でも多くの仲間を作ってください。

## 営業職



菊水テープ株式会社  
営業本部 貿易  
葛城 理一さん  
宗教学科 宗教学専攻  
2002年3月卒業

粘着テープ専門メーカーで、海外営業を担当。卒業後は南米パラグアイでの海外布教を経験し、天理日仏文化協会でも勤務。豊富な海外経験と語学力を業務に生かしています。実は、私のサラリーマンデビューは33歳のとき。天理教の教会後継者として「社会の荒波に揉まれている信者の方々の話を深く理解し寄り添いたい」との思いから、会社員となることを決意し現職に至ります。在学中は天理教学生会で貴重な仲間を得ながら、海外30か国以上への一人旅や国際ボランティアで世界観を広げました。人生とはマラソンのようなもの。走ってみなければその辛さや楽しさは分かりません。何にでも挑戦し、悔いのない学生生活を過ごしてください。

## 教会長



天理教名陽分教会  
教会長(代表役員)  
中山 信行さん  
宗教学科 1990年3月卒業

名陽分教会で教会長をしています。大正14年設立の名陽分教会は、私で4代目。主に、教会のご用を始め、年3回のメキシコ布教も行っており、日常的なスペイン語の勉強にも力を入れています。宗教学科で同じ立場の友人を多く得られたことは、自分を客観的に見つめるきっかけになりました。合気道部にも所属し、関西大会や全国大会に向けて皆で切磋琢磨したことが良い思い出です。また同部の元顧問でイスパニア学部の教授であった上谷博先生には、メキシコ布教の際に大変お世話になりました。当時の仲間や恩師はかけがえのない存在。在学中に学んだ協調性や人間関係の大切さは、今の生活で生きています。

## 『天理時報』記者



天理教道友社  
編集出版課  
大岩 可奈さん  
宗教学科  
2016年3月卒業

天理教内の機関紙『天理時報』の製作に携わっています。記者として、主に紙面の企画や取材、原稿の執筆、写真撮影や校正などを担当しています。宗教学科では天理教の教義を中心に世界の宗教について学んだことで、お道の教えの素晴らしさを改めて実感するようになりました。また、他学科や留学生の友達から刺激を受けて中国語に興味を持ち、語学の勉強にも励んだことで、簡単な日常会話を理解できるまでに成長できました。天理大学には、さまざまな文化や考え方に触れながら学べる環境が整っています。好奇心をもって挑戦し、多くの人と親交を深めてください。その経験がきっと今後の人生を豊かなものにしてくれるはずです。

## 教会長



天理教大啓分教会  
代表役員  
梅原 浩司さん  
宗教学科 天理教学専攻  
2004年3月卒業

天理教の布教活動や信者様方の丹精に動いています。最近では教会に一人でも多くの方に繋がっていただきたいとの思いから、子供会や子育て講座を開催し、街頭で人の悩みを聞かせていただく「聴き屋」などを行っています。常に相手の立場に立ち、親身に寄り添うことを目指しています。在学中は天理教大阪学生会の活動に参加し、委員長も担当。相手に「求める」のではなく相手に「認める」とことや、「正しい」ことではなく「楽しい」活動を中心に行うなど、多くの気づきを得ました。当時の経験は今、さまざまな場面で生きています。若い頃の経験は、必ず将来の宝になります。大きな夢を持ち、人生を心から楽しみ確実に歩みを進めてください。

## 研究員



京都府立大学・文学部  
陳 宗炫さん  
宗教学科  
2012年3月卒業

日々研究活動に励んでいます。自らの知的好奇心にもとづき研究を続けていますが、その成果がより多くの人のために役立つことを大事にしています。学部生時の卒業論文テーマは、「人が宗教を信じるようになる背景や経緯」。同じ宗教であっても異なる文化を有する国や社会を対象に布教を行う過程で、信仰生活の様子が変わっていくことに興味をもち研究者の道へ。在学中は宗教文化士の資格も取得し、異なる文化圏から来た他者を宗教的な視点から理解するための勉強になりました。天理大学では、「共生」について考える機会が多くありました。助け合いの輪の中で勉強に励み、大切な友人と素敵な思い出を作ってください。

## 大学院生

天理大学大学院 臨床人間学研究科  
臨床心理学専攻(修士課程)  
森原 暉大さん  
人間学部 人間関係学科 臨床心理専攻 2021年3月卒業

臨床心理学をより深く学ぶために、大学院へ進学しました。学部時代は、日本人の信仰の心理的な特性をテーマとする卒業論文の執筆に励みながら、軽音楽部「ALS Jazz Orchestra」の活動にも熱心に取り組みました。4年間で学んだ臨床心理学における基本的な考え方や姿勢、部活動の運営を通じて磨いたコミュニケーション力は、現在の生活や研究に生きています。人のこころには、明確な答えがあるわけではありません。答えを急がず、じっくりと考え続けることを大切にしながら、カウンセリングにおける基礎をしっかりと身につけ、実際の現場でクライアントに寄り添える人をめざします。



## 大学院生

天理大学大学院 臨床人間学研究科  
臨床心理学専攻(修士課程)  
森 あき恵さん  
人間学部 人間関係学科 臨床心理専攻 2021年3月卒業

実家が里親をしており、里子を通して発達障害やその支援について触れる機会が多くあったことから、学部時代は里親養育をテーマに卒業論文を執筆しました。学びを深め、子どもの発達支援や発達検査に携わりたいと感じて大学院に進学。現在は臨床人間学研究科で勉強に励みながら、付属のカウンセリングルームで実際にクライアントを受け持っています。プレイセラピーを通じて関係性が育まれていくのがうれしく、クライアントの皆さんが笑顔で帰られる際に大きなやりがいを感じます。クライアントの世界を豊かに感じる事ができる人間をめざし努力を続けたいです。

## 心理相談員

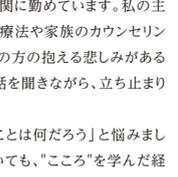


児童家庭福祉センター  
てんり  
坂本 はぎよさん  
人間関係学科 臨床心理専攻  
2015年3月卒業  
大学院 臨床人間学研究科  
臨床心理学専攻(修士課程)  
2017年3月修了  
公認心理師/臨床心理士

児童家庭福祉に関する地域相談機関に勤めています。私の主な業務は、来談された子どもの心理療法や家族のカウンセリングです。どのクライアントさんにもその方の抱える悲しみがあるということに常に意識し、丁寧に話を聞きながら、立ち止まり振り返ることを大切にしています。

大学進学の際には「自分のしたいことは何だろう」と悩みましたが、将来自分がどんな職業についても、「こころ」を学んだ経験は役に立つはずと思い至り、当専攻を選びました。そして大学院に進学し、足を踏み入れた奥深い心理臨床の世界。仕事をすすめるうえで、難しさを感じる場面の方が多いですが、セラピーの中で感動的な瞬間を体験したときやクライアントの方との別れに際してそれまでを振り返るとき、心の作業を共にしてきた甲斐を感じます。在学中は専攻からの紹介を通じ、不登校児童と一緒に時間を過ごすボランティアや、学習障がいの子どもの家庭教師なども経験しました。活動を通じて自分を見つめた記憶は、今も自身の基盤となっています。無事に公認心理師にも合格しましたが、資格に安住せず「臨床」の心理職であるよう歩み続けたいです。

## 心理相談員



NPO法人さらだ  
まぜまぜ♡さらだ  
山下 優生さん  
人間関係学科 臨床心理専攻  
2017年3月卒業

大学進学の際には「自分のしたいことは何だろう」と悩みましたが、将来自分がどんな職業についても、「こころ」を学んだ経験は役に立つはずと思い至り、当専攻を選びました。そして大学院に進学し、足を踏み入れた奥深い心理臨床の世界。仕事をすすめるうえで、難しさを感じる場面の方が多いですが、セラピーの中で感動的な瞬間を体験したときやクライアントの方との別れに際してそれまでを振り返るとき、心の作業を共にしてきた甲斐を感じます。在学中は専攻からの紹介を通じ、不登校児童と一緒に時間を過ごすボランティアや、学習障がいの子どもの家庭教師なども経験しました。活動を通じて自分を見つめた記憶は、今も自身の基盤となっています。無事に公認心理師にも合格しましたが、資格に安住せず「臨床」の心理職であるよう歩み続けたいです。

## 児童指導員

通所型療育・放課後デイサービス施設で、未就学児から小学生を対象に日常生活を送る上で困難のある子どもたちの療育に携わっています。子どもたちの発達を間近に見ながら、その成長に寄り添えることにやりがいを感じます。また、職場の方達と連携をとり幅広い視野を持つために勉強し続けることを大切にしています。  
「何でもやってみよう」という意気込みで過ごした大学時代。専攻外でも受けられるフランス語を履修したり、4年次には実際にフランスに行ってみたりと、「今しかできない」ことに挑戦しました。そのおかげで今、人の挑戦や相談を肯定的に応援できるようなったと思います。また、熊本地震のボランティアにも参加させていただきました。現場を目の当たりにしたことで大きな衝撃を受けましたが、現地の方やともに活動した仲間との出会いも含め、貴重な経験となりました。人生は出会いで大きく変わるものです。現職も、人との出会いやつながりがなければ、関わることのない世界でした。天理大学の素晴らしい先生方に必要な時は助けを求め、たくさん感謝しながら充実した4年間を過ごしてください。

## スクールカウンセラー



大阪府・奈良県・和歌山県下の  
小中学校スクールカウンセラー  
中野 誠志さん  
人間関係学科 臨床心理専攻  
2011年3月卒業  
大学院 臨床人間学研究科  
臨床心理学専攻(修士課程)  
2014年3月修了  
公認心理師/臨床心理士

臨床心理士として、スクールカウンセラーをしています。児童や職員・保護者へのカウンセリングのほか、時に一緒に授業に参加するなど学校生活において関わりをもつ心の専門家として、その学校に携わる全ての人のへの支援を行っています。周りから諦められている児童が自分にも可能性があるのだと気づき、周りも変わっていく瞬間に立ち会えることにやりがいを感じます。天理大学の臨床心理専攻は、心の理解のための基礎を学べる素晴らしい場所。私も箱庭を作る実習などさまざまな角度の学びを通じ多くの気づきを得ました。苦しい経験も含め、心理臨床の世界ではすべてが役に立ちます。4年間で何かに思いきり向き合ってみてください。

## 病院常勤職



一般財団法人成研会  
結のそみ病院  
診療支援部心理室  
小口 詩乃さん  
人間関係学科 臨床心理専攻  
2016年3月卒業  
大学院 臨床人間学研究科  
臨床心理学専攻(修士課程)  
2018年3月修了  
公認心理師/臨床心理士

精神科病院で公認心理師・臨床心理士として勤務しています。主な業務は入院・外来患者さんの心理検査やカウンセリングです。病院で働く多様な職種の方たちとの連携を取りながら、常に「患者さんのためになること」を考え、患者さんの支援につながる働きができるよう心がけています。天理大学・天理大学大学院では、仕組みや理論には留まらない、実践的な学びが多くありました。そうした機会を通じて、チャレンジすることの大切さを実感したことで、さまざまなことに好奇心を持つことができるようになりました。今後も折に触れて学生時代を思い出しながら、初心を大切に日々の業務に励みたいです。

## 警察官



北海道警察  
武田 祐治さん  
人間関係学科 臨床心理専攻  
2017年3月卒業

交番で勤務し、パトロールから事故の対応までさまざまな面で地域の治安を守っています。昔から「人の役に立ちたい」と考えていたことから警察官を志しました。難しいと感じる業務上の局面もありますが、「ありがとう」と温かな感謝の言葉をかけていただくことにやりがいを感じながら日々の業務に励んでいます。職務質問では、会話のなかで犯人の嘘や矛盾点を探る必要があります。怪しいと感じることがあれば、更に深く質問する必要も出てきます。一見、臨床心理とは無関係に見える現職ですが、そういうとき専攻で学んだ「対話を大切にする姿勢」が生きていると感じます。これからも地域住民から頼られる警察官を目指します。



天理市役所 市民課・主任主事・事務職  
今西 智香さん  
人間関係学科 生涯教育専攻 2016年3月卒業

## 公務員

天理市役所の市民課において、戸籍や住民票の写しなどの証明書交付、住所異動など各種届けの受付を行っています。業務で扱う法律を勉強し疑問点は上司に相談するなど、市民の皆さまに常に正確な情報を伝えられるよう心がけています。現職のきっかけは、生涯教育専攻生としての学生生活。授業や課外活動等で関わってくださった地域の方々の地元愛を肌で感じ「一緒に市を盛り上げたい」と感じたことでした。やりがいを感じるの、やはり市民の皆さまの笑顔を見る瞬間。「これからも頑張っていこう」と何度も胸を熱くさせられています。在学中は地域活性化に関する授業や課外活動に取り組みました。生涯教育専攻独自の自主サークルにも所属し、自然とのふれあいをテーマにした幼児向けの工作教室など、イベントを実施。専攻で学んだ企画・運営力をベースに、発想力、広報力、交渉力、問題解決力などさまざまな実践力を養いました。また、図書館司書資格と社会教育主事資格も取得。公務員として働くうえで役立つものを在学中に少しでも多く自分のスキルに

したいとの思いで、勉強に励みました。天理大学での学びや経験は、公務員としての将来に夢焦がれている頃の気持ちを思い出させてくれるものとして、今でも心の中で生きています。他大学他専攻では経験できないようなことをたくさん経験し、社会人としての基礎となる土台を築くことができました。生涯教育専攻での素晴らしい大学生活が、まさに私を今の職業に導いてくれたと思っています。大学4年間で社会人になるための準備をしたい人、学業・部活・課外活動などさまざまな経験から実践的に学びたい人には、天理大学生涯教育専攻をぜひおすすめします。充実した実習や学習内容の楽しさはもちろんのこと、少人数制のもとで先生方から親身な指導を受けられるところも魅力のひとつです。本専攻での学びは、あなたの大学生活を充実したものにしてくれることに間違いありません。将来、このパンフレットを読んでいる後輩たちと一緒に仕事ができる日を楽しみに、先輩として手本とされるよう、私も努力を続けていきたいと思っています。

## 生涯学習センター



公益財団法人  
奈良市生涯学習財団  
生涯学習センター 主任  
井上 麻里さん（旧姓：大岡）  
人間関係学科 生涯教育専攻  
2002年3月卒業

大学での学びを生かしたいとの思いから現在の職場を希望し、勤続16年目になります。企画した主催講座に多くの応募があったり、喜んでいただけた声が聞けたとき、頑張った甲斐があったなと感じます。思い返すと大学2年次までは、生涯教育を学ぶことが将来の自分にどのように結びつくのかまだ分かっていませんでした。転機は3年次の社会教育実習。実習を通じ社会教育を体感したことが人生の財産です。この先、どんな人生の選択肢を取っても人は必ず人と関わり生きていくものです。時に面倒なことや辛いこともありますが、人を救うのもまた人しかないと私は感じています。人との繋がりが、自分を成長させてください。

## 中学校教員



香芝市立香芝北中学校  
教諭  
山本 朱音さん  
人間関係学科 生涯教育専攻  
2016年3月卒業

教科・生徒指導を始め、部活動顧問も担当。中学生は悩みや葛藤を抱える年頃。話がしやすい環境づくりを大切にしており、相談に来た生徒が笑顔で帰る姿に喜びとやりがいを感じます。生涯教育専攻では、キャリア教育という観点でさまざまなことに挑戦。特に地域連携プロジェクトとして「日本酒生チョコ」の制作・販売を手掛けたことが印象に残っています。プレゼンテーションや地域の人との関わりを通じ人見知りも克服。当時の経験が今の職業にも生きています。夢は、周囲の支えがあってこそ実現できるもの。少人数制のもと一人ひとりを大切に支援してくれた先生方に感謝しています。生涯教育専攻で学べたことが、私の人生の転機です。

## 企画・広報担当職



京昆布舗 田なか  
営業部  
中村 道裕さん  
人間関係学科 生涯教育専攻  
2016年3月卒業

道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」の運営、地域産品を使った商品開発、販路拡大のための営業活動を通じ、地域づくりに携わっています。生涯教育専攻での経験は、現在の考え方や取り組み方のベースに大きな影響を与えてくれました。特に卒業論文に関連して研究した「地域を活性化するために必要な人材」というテーマは、現職にも通じています。何より、在学中に培われた人とのつながりが今の自分をつくっていることは間違いありません。一見無駄に思えることも、一生懸命に取り組めばすべてが肥やしとなります。少しでも多くのことに触れながら貴重な人間関係を構築し、素晴らしい大学生活を送ってください。

## 地域スポーツクラブ マネージャー



伊那市総合型  
地域スポーツクラブ  
マネージャー  
バドミントンプロコーチ  
齋藤 聡史さん  
人間関係学科 生涯教育専攻  
2008年3月卒業

長野県の総合型地域スポーツクラブで、地域に密着し、いつでもどこでも、だれでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりを目指し、文化活動の講座やイベントを実施しています。またバドミントンのプロコーチとして、ジュニアや中学生のバドミントンクラブでの指導を始め、情報発信サイトの運営など普及活動にも力をいれています。大学時代はバドミントン部での活動に熱中。学業にもメリハリをつけて取り組み、「アスリートの自己調整学習」を研究しました。「どんなことでも学びになりうる」という生涯教育専攻での学びを、バドミントンを通じて体感する毎日です。

## 営業職



株式会社ファミリーマート  
営業本部 ライン運営事業部  
近鉄支援第2グループ  
波賀 政伸さん  
人間関係学科 生涯教育専攻  
2003年3月卒業

法人担当として近畿日本鉄道施設内の店舗運営・経営管理のコンサルタントをしています。スピードを持って対応し、粘り強く交渉することを大切にしています。在学中は、社会教育主事任用資格、博物館学芸員、ビジネス能力検定とさまざまな資格を取得し、学外では、奈良県学生献血推進協議会会長として、日本赤十字社、厚生労働省、行政を交え、学生の献血推進に力を入れました。また、専攻合宿の企画を立てたり生涯教育施設で実習したりした経験は、幅広い立場をまとめる今の仕事において非常に役立っています。貴重な大学時代を充実させる上でも、何にでも本気で挑戦してください。

## 図書館員



和歌山県御坊市職員  
(元 有田川町立図書館)  
野田 沙良さん  
人間関係学科 生涯教育専攻  
2016年3月卒業

図書館に勤務し、カウンター業務やレファレンスサービスなどを行っています。また児童サービスとして小学校高学年を対象にテーマに沿って本を紹介したり、町内の保育園・小学校へ読み聞かせに赴いたりしています。卒業論文では「絵本」をテーマに「絵本には本当に教育的効果があるのか」について研究。また、友人とともに地域活性化サークル「ir-neT」を立ち上げ、主として商店街で子ども向けの工作教室などのイベントを催しました。大学時代の学びとさまざまな活動に積極的に参加したことが、今の仕事でも生きています。今後も子どもたちに本の楽しさを伝え、図書館を利用したいと思ってもらえるような仕事がしたいです。



奈良市富雄西地域包括支援センター 主幹  
笠松 健一郎さん  
人間関係学科 社会福祉専攻 2000年3月卒業

## 地域包括支援センター職員

地域で暮らす高齢者の総合相談、権利擁護に関する支援、住民同士が助け合える支援体制づくり、介護予防の必要な援助など、社会福祉士や保健師、主任介護支援専門員などの専門職チームで、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進に向けて包括的に支援を行っています。社会福祉の道に進んだきっかけは、父の言葉でした。大学進学の際、「これからは高齢者が増えて、福祉の仕事が重要になる。人助けにも繋がるものだから、大学では社会福祉を学んでどうか」とアドバイスを受け、天理大学社会福祉専攻への進学を決めました。社会福祉専攻では、「在宅介護における介護者負担」をテーマに研究。ちょうど介護保険制度が始まるときだったので、市内の事業者などに協力をお願いしました。こうした取り組みを通じ、今までは自身が関与していなかった未知の世界に足を踏み入れ、社会人の方々からさまざまなお話を伺えたことは、大変貴重な経験になりました。現在の仕事では、挨拶・整理整頓・情報共有をキーワードにし

ています。なんといっても、私の仕事は「人相手」。「人」と「人」、「人」と「環境」の間に介入することが常なので、人間関係を大切にしています。人との関係性を構築するための最初の一步は、まず「挨拶」。また、それぞれの地域には多様な生活課題があり、解決に向けては課題や情報の整理が必要です。そして、仕事はチームで行いますので、メンバー間の意思疎通や情報共有は欠かせません。私の場合は大学で学んだことがすべて仕事に直結しているため、当時の学びが現在の生活にまるごと生きていると感じます。高齢者分野での就職となりましたが、児童福祉や障がい者支援など「福祉」という大きな枠組みのなかで働く同級生や先輩後輩の存在が大変心強く、今でも連絡を取り合い交流を継続しています。社会福祉に携わる仕事は、言わばさまざまな角度から周囲の人たちを巻き込み、人間の幸せを追求し、実現するための一翼を担うことができる仕事です。これからも、人に喜ばれる仕事を続けて行きたいと思っています。

## 社会福祉協議会 職員



社会福祉法人  
京都府社会福祉協議会  
黒田 昌一さん  
人間関係学科 社会福祉専攻  
2012年3月卒業

京都府内の地域福祉・社会福祉の充実を広域的に支援しています。現在は研修センターで京都府内の福祉事業所職員などを対象に、専門性の向上などを目的とした研修事業を企画・運営しています。在学中は地域福祉と障害福祉に関心を持ち、専攻の特徴である少人数制のもと、学びを深めました。所属したボランティアサークルのみがいた企画力やコミュニケーション能力も現職に生きています。現在の業務は、住民や施設利用者や直接関わるお仕事ではありませんが、業務を通じ、地域や施設で暮らす方が今より少しだけでも笑顔になってもらえればと思っています。京都府内を広域的に支援できる強みを活かし、社会福祉の活性化に貢献したいです。

## 牧場従業員



(株)リトルブルーファーム  
小川 理香さん  
人間関係学科 社会福祉専攻  
2013年3月卒業

子どもの頃から動物が好きで、自然の多い北海道で動物と関わる仕事がしたいと考えていました。現在は、北海道の牧場従業員として、競走馬の生産・育成に携わり、餌やり、馬房掃除、馬のお手入れを行っています。やりがいは、何より馬が無事に成長してくれること。話ができない相手ですので、ちょっとした変化にも敏感に気づけるよう心がけています。卒業論文では「アニマルセラピーの有効性について」をテーマに執筆。どのようにすればアニマルセラピーを広められるのか検証しました。また社会福祉士国家試験の勉強から合気道部での活動まで、さまざまなことに挑戦しました。やりたいと感じたことに、積極的に挑戦してみてください。

## 児童養護施設職員



社会福祉法人天理  
天理養徳院  
深井 初美さん（旧姓：谷森）  
人間関係学科 社会福祉専攻  
2009年3月卒業

保護者と生活することが難しい子どもたちの養育を行い、自立支援、アフターケアを行う歴史ある施設において、事務職員として勤務しています。私の業務内容は、行政への連絡から子どもたちの生活に必要な金品の管理まで、多岐に渡ります。専攻の学びで印象に残っているのは、相談援助です。「相手に喜んでもらえるためにはどうしたら良いか」という視点を持ちながらクライアントの悩みと真剣に向き合い、最善の方法を考えられるようになったと思います。児童養護施設の事務職員として、子どもたちと職員の方に喜んでもらえるよう日々業務に励んでいます。専攻での学びをしっかり吸収し将来の福祉の現場で役立ててください。

## 医療ソーシャルワーカー



公益財団法人  
天理よろづ相談所病院  
患者総合支援センター  
主任  
上田 理香さん（旧姓：田代）  
人間関係学科 社会福祉専攻  
2003年3月卒業

急性期病院の医療ソーシャルワーカーとして、主に退院支援や医療費の相談などを行っています。患者さんとご家族により身近な立場で、ともに考え、寄り添い、意思決定へとつなぐ支援を心がけています。在学中は障がいのある方のお家で約3年間ボランティアを経験。病気を抱えながら自宅で生活される方の支援を行うとき、あの頃の経験が活かされていると感じます。今後も知識や経験を深め、一つ一つの支援を大切にしていきたいです。九州の親元から離れ、はじめは心細い大学生活でしたが、40名ほどの専攻の仲間と4年間充実した大学生活を送ることができました。今もその縁に支えられています。

## 障害者相談支援 職員



社会福祉法人 大和会  
なら東和障害者就業・  
生活支援センターたいよう  
センター長  
村上 仁さん  
人間関係学科 社会福祉専攻  
1997年3月卒業

障害者就業・生活支援センターで勤務し、障がいのある方のお仕事や生活についての相談を受け、必要な支援を共に考えていく業務をしています。大学時代の授業やボランティアを通じ、障がいを持つ方の就労支援に携わりたいと考え、この業界に飛び込みました。社会福祉専攻は、少人数制であり、すぐに先生や同じ専攻の仲間と相談できる体制がありました。今の仕事でも、障がいのある方に「安心して相談できる場所」を提供できるように努めています。福祉業界で仕事をするうえで、醍醐味は、ともに寄り添い、先行を見守り応援していくなかで、多くの方と関われること。先生や仲間と触れ合いながら、将来の夢に向かう準備をしてください。

## 精神保健福祉士



医療法人鴻池会  
秋津鴻池病院  
医療相談課 係長  
冬木 利明さん  
人間関係学科 社会福祉専攻  
2002年3月卒業

精神保健福祉士として勤務し、精神疾患を患う方の受診・入院の相談、入院中の療養相談、退院後の生活支援を行っています。精神面が不安定な患者さんやそのご家族は、家族関係の悪化や経済的な問題などさまざまな不安を抱えています。相談への対応がスムーズな受診や入院に繋がったときにやりがいを感じます。在学中は社会福祉士の資格取得に向けて、実習や試験勉強に励み合格。現在、社会福祉の専門職として働くことができるのは当時の学びがあったからこそ。就職後には精神保健福祉士と介護支援専門員の資格も取得しました。大学生活は長いようで短い。自分の将来を定める大切な時期ということを意識して、毎日を過ごしてください。